

製品名: p53 (リン酸化 Ser366) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05167**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	TP53
別名	TP53; P53; Cellular tumor antigen p53; Antigen NY-CO-13; Phosphoprotein p53; Tumor suppressor p53
遺伝子 ID	7157.0
SwissProt ID	P04637
免疫原	抗血清は、Ser366 のリン酸化部位周辺のヒト p53 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

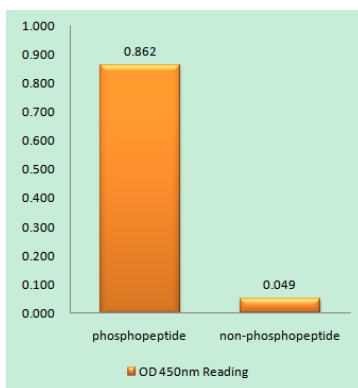
背景

核タンパク質である腫瘍タンパク質 p53 は、細胞周期の制御、特に G0 期から G1 期への移行において重要な役割を果たします。正常細胞では非常に低濃度で存在しますが、様々な形質転換細胞株では高発現しており、形質転換および悪性化に寄与すると考えられています。p53 は DNA 結合タンパク質であり、DNA 結合、オリゴマー形成、および転写活性化ドメインを有します。

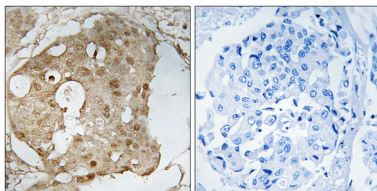
研究分野

幹細胞経路; WNT; WNT-T 細胞; β -カテニン; SAPK_JNK; AMPK; Cell_Cycle_G1S; Cell_Cycle_G2M_DNA; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; Protein_Acetylation

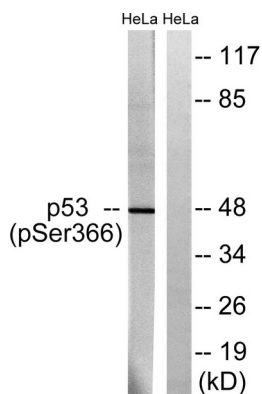
画像データ



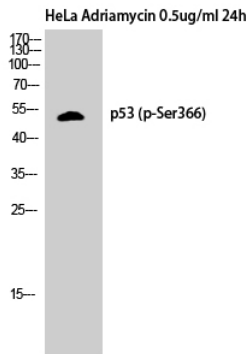
p53 (リン酸化 Ser366) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



p53 (リン酸化 Ser366) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



アドリアマイシン 0.5ug/ml で 24 時間処理した HeLa 細胞のライセートを p53 (リン酸化 Ser366) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 p53 (S366) ポリクローナル抗体を用いた HELA 細胞のウェスタンブロット解析